

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
病態と治療 II	1	30	1年前期	一木 崇宏 河田哲也 島村佳一

科目のねらい

疾患の病態、治療検査を理解し、その疾患のもつ患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う

教科書	： 系統看護学講座 専門分野 II 消化器	成人看護学⑤	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 II 腎・泌尿器	成人看護学⑧	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 II 内分泌・代謝	成人看護学⑥	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 II 血液・造血器	成人看護学④	医学書院
	系統看護学講座 専門分野 II アレルギー・膠原病感染症	成人看護学⑪	医学書院

参考文献 : 都度紹介

評価方法 : 筆記試験 100%(一木 60% 河田 20% 島村 20%)

評価認定 : 優(80点以上)、良(70~75点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする

授業の進め方

解剖生理学の確認をしながら、臨床で主に遭遇する代表疾患を中心に進めます

単元 : 消化器系	担当講師 : 一木 崇宏	単元 : 内分泌代謝系	担当講師 : 島村 佳一
単元 : 腎・泌尿器系	担当講師 : 河田哲也	単元 : 血液・免疫系	担当講師 : 一木 崇宏

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1			1. 消化器の構造と機能 ・食道、胃十二指腸、小腸大腸、直腸 肛門	
2			2. 症状とその病態生理 嚥下困難、嘔吐、吐血、下血、下痢、便秘 腹水、黄疸	
3			3. 検査と治療 ・診察と診断の流れ ・糞便検査、肝生検、内視鏡検査 放射線検査、超音波検査 ・薬物療法、栄養・食事療法、放射線療法	
4			4. 疾患の理解 ・食道、胃・十二指腸疾患、腸膜疾患 肝臓・胆嚢疾患、脾臓疾患、急性腹症	
5				
6	消化器疾患の病態と 検査治療処置	12		講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
7 8 9	腎・泌尿器疾患の病態と検査治療処置	6	1. 腎・泌尿器の構造と機能 • 腎臓、尿管、膀胱、尿道、男性生殖器 2. 症状とその病態生理 • 尿の異常、排尿症状、浮腫、脱水 循環器・血液異常、尿毒症、腫脹、腫瘍 3. 検査と治療・処置 • 病歴聴取と診察法 • 尿検査、腎機能検査、内視鏡検査 生検、性・生殖機能検査 • 手術療法、がん治療、排尿管理 透析療法、腎移植 4. 疾患の理解 • 腎不全、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎 糖尿病性腎症	講義
10 11 12	内分泌・代謝疾患の病態と検査治療処置	6	1. 内分泌・代謝器官の構造と機能 • 視床下部、下垂体、甲状腺 • ホルモン機能 2. 症状とその病態生理 • 体重変化・身長の異常、容貌変化 3. 治療検査 • 内分泌代謝疾患の検査 • インスリン療法、薬物・食事・運動療法 4. 疾患の理解 • 巨人症、クッシング症候群、尿崩症 橋本病、バセドウ病、糖尿病 脂質尿酸異常	講義
	アレルギー・膠原病疾患の病態と検査治療処置		1. 自己免疫疾患とその機序 2. 症状とその病態生理 • 関節痛、レイノー現象、筋力低下 3. 検査と治療 • 膠原病の診断までの流れ • 抗核抗体、免疫グロブリン、筋生検 • 薬物療法（副腎皮質ステロイド薬、免疫抑制薬抗リウマチ薬） 4. 疾患の理解 • 関節リウマチ、エリテマトーデス、強皮症 シエグレン症候群、ベーチェット病	

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
13			1. 血液の生理と造血のしくみ ・血液の成分と機能、造血のしくみ	
14			2. 検査・診断と症候・病態生理 ・貧血、発熱、リンパ節腫脹、出血傾向	
15	血液・造血器疾患 の病態と検査治療処置	6	・骨髓穿刺・生検、染色体遺伝子検査 3. 疾患と治療の理解 ・再生不良性貧血、紫斑病、血友病 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫 ・血液型と輸血療法 化学療法、造血幹細胞移植	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
リハビリテーション	1	15	1年前期	富樫英則
科目のねらい				
リハビリテーションの意義と方法について学び、身体や精神の機能回復に向けて援助する際の基礎的知識、技術を身につける				
教科書 : 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院				
参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100%				
評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方				
各看護学に活用できる内容として講義をします 介助演習もします				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	リハビリテーションの定義と概念	2	1. リハビリテーションの定義と理念 2. リハビリテーションの対象と制度	講義
	疾病・障がい・生活機能の分類		1. 障害者の分類と構造 国際疾病分類(ICD) 国際障害分類(ICIDH) 国際生活機能分類(ICF) 客観的障害と主観的障害	
2	リハビリテーションの分類	2	1. 医学的リハビリテーション 2. 教育的リハビリテーション 3. 職業的リハビリテーション 4. 社会的リハビリテーション	講義
	リハビリテーション医療の提供		1. リハビリテーション医療システムとチーム 医療 連携職種 他職種連携のあり方	
3	運動器系の障害とリハビリテーション	2	1. 廃用症候群を防ぐには 2. 積極的リハビリテーションプログラム 3. 運動の種類	講義 プレゼンテーション
4	検査手技	2	1. 筋萎縮の比較 2.MMT 3.筋肉増強の3大条件 4.アンダーソン改定基準 5.関節可動域 6.ADL評価	講義

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
5	中枢神経系の障害と リハビリテーション	2	1. 中枢神経系麻痺の診方 2. 嘔下・言語障害のリハビリテーション	講義
6	呼吸・循環器系と リハビリテーション	2	1. 虚血性心疾患患者のリハビリテーション 2. 慢性閉塞性肺疾患のリハビリテーション	講義
7	トランスファーの 介助演習	3	1. 車椅子からベット ベットから車椅子 2. 他動的関節可動域運動	演習 (実技)
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
看護学概論	1	30	1年前期	中川千穂子 佐藤悦子
科目目的 : 看護の概念、目的、役割と機能を理解し、看護実践の基盤となる人間観、健康観を培う				
目標 : 1. 看護の歴史的変遷を通して看護の概念を理解する 2. 健康について多面的にとらえることができ、看護者としての健康観を育成する 3. 看護の対象である人間について学び、看護の対象としての人間を統合的に理解する 4. 看護の機能と役割を学び、看護活動の概要を理解する 5. 看護理論の発展過程を学び、看護の理解を深める 6. 職業倫理としての看護倫理がどのように確立できたかを理解する				
教科書 : 系統看護学講座 専門 I 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版				
参考文献 : フロレンス・ナイチングエール 看護覚え書き 日本看護協会出版 ナーシング・グラフィカ 看護概論 基礎看護学① メディカ出版				
評価方法 : 筆記試験 100% (中川 80% 佐藤 20%)				
評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 : 1. 教科書、配布資料をもとに授業を進めていきます 2. グループワークがありますので、積極的に参加してください グループワーク終了後はレポート提出ありますので、期限を守ってください				
単元 : 看護の概念、健康と看護、看護の対象 看護の機能と役割		担当講師 : 中川 千穂子		
単元 : 看護倫理 看護理論		担当講師 : 佐藤 悅子		

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	看護の概念	看護の歴史的変遷を通して、看護の概念・役割を理解する	4	1. 看護とは 1)看護の変遷 (1)看護の原点 (2)看護の語源 (3)看護の歴史 (4)アメリカにおける看護学の発展 2)看護の定義 (1)看護の理論家にみる看護の定義 (ナイチングエール、ヘンダーソン) (2)看護職能団体による看護の定義 3)看護覚え書 抄読会 発表	講義
2					DVD 視聴 看護論シリーズ グループワーク

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				4) 看護の概念 (1)看護の目的・看護の対象・看護の方法 (2)看護の構成要素 ①人間・健康・看護・環境	講義
3	健康と看護	健康の定義を理解し、自分の健康観を明確する	12	1. 健康の概念と変遷 1)健康観とその時代の価値体系 2)既存の健康概念	講義
4		健康と健康障害の連続的過程を理解する		2. 健康の定義とその考え方 1)健康の定義 2)健康と不健康 3)WHOの健康の定義、ポジティブヘルス 4)ナイチングール、ヘンダーソンの健康の定義 5)望ましい健康状態、これからの健康観	
5				3. WHOの方策 1)健康増進のための方策 ヘルスプロモーション 2)健康へのアプローチ ウェルネス運動	
6				4. 健康保持と健康障害 1)健康障害、社会健康のプロセス 2)ホメオスタシス 3)健康観と健康づくり 4)健康成立の諸条件 5)保健行動と受診行動 6)自己ケアープライマリーヘルスケア 7)疾病予防の5段階	
7				5. ライフサイクルと健康	
8				6. 保健医療福祉と看護 ・グループワーク テーマ「健康観を明らかにする」	グループワーク
				1)学習方法：新聞記事・雑誌・参考図書を活用し、積極的に話し合う	

単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
9 10	看護の対象 看護の対象を生活と健康の視点からとらえる 人間の暮らしを理解する	4	1. 人間の特徴 1)生物学的基盤 2)ライフサイクル 3)社会の中での存在 4)基本的欲求 5)統合された存在 6)人間と環境 2. 生活概念 1)生活とは、日常性とは 2)日常生活とは、生活を整えるとは 3)ヘンダーソンの看護から考える 3. 健康障害を持つ人の特徴 1)患者とは 2)患者の心理、家族の心理 3)健康障害とは 4)病人役割 4. 健康障害にある対象の心理反応 1)ストレスとコーピング 2)QOL 3)危機（発達危機、状況危機） 4)終末期の心理	講義
11 12	看護の機能と役割 看護の機能と役割を理解する	4	1. 看護の機能、役割 1)看護業務と法律 (1)保助看法、医療法 (2)看護の機能 (3)保健・医療・福祉と看護 2. 看護活動の場とその場における看護の役割 3. 保健・医療・福祉における看護の役割 4. 対象の権利と尊厳	講義
	継続看護の必要性と意義を理解する		1. 継続看護の意義 2. 継続看護の必要性	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
13	看護倫理	職業倫理としての看護倫理がどのように確立してきたかを理解する	3	1. 現代社会と倫理 1)なぜ倫理について学ぶのか 2)倫理、道徳、法 3)現代の医療・看護と倫理 4)職業倫理としての看護倫理 2. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 1)患者の権利とインフォームドコンセント 2)現代医療におけるさまざまな倫理的問題 3)医療専門職の倫理規定 3. 看護実践における倫理問題への取り組み 1)看護の本質としての看護倫理 2)医療をめぐる倫理原則とケアの倫理 3)倫理的課題に取り組むためのしくみ	講義
14					グループ
15					ワーク
	看護理論	看護理論の発展過程を学び看護の理解を深める	3	1. 看護理論の発展過程 1)理論の範囲 (1)広範囲 (2)中範囲 (3)小範囲 2) 看護モデルの概要 (1)セルフケアモデル オレムのセルフケア理論 (2)ニード、問題思考の理論 ナイチングエール ヘンダーソンの看護理論 (3)相互作用モデル トラベルビーの理論 (4)システムモデル (5)わが国の看護モデル ①科学的看護論 ②生活統合体モデル ③日本看護協会の記述	講義 D V D 視聴 看護論シリーズ 事前学習 グループ ワーク
単位修得認定試験		1	筆記試験		

事前学習

1) 新訂版 実践に生かす看護理論 19

下記の理論を熟読する。授業では、熟読を参考にグループワークをして、各グループで話し合ったテーマを模造紙に整理し、内容を発表する。

- (1) 第5章 ヒルデガード・E.ペプロウ
- (2) 第6章 アイダ・ジーン・オーランド
- (3) 第7章 ジョイス・トラベルビー
- (4) 第8章 シスター・カリスタ・ロイ
- (5) 第9章 ドロセア・E.オレム
- (6) 第14章 マデリン・M.レイニンガー
- (7) 第15章 リディア・E.ホール
- (8) 第18章 ジーン・ワトソン

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
共通援助技術	1	15	1年 前期	黒田いく子 藤原未央
科目目的：すべての看護援助に共通し、あらゆる看護技術を支えるために必要な知識・技術・態度を身につける				
科目目標：1. 安全・安楽・適切な看護技術を習得する必要性を理解する 2. 看護における安全確保の目的・意義を理解する 3. 看護における観察・記録の目的・意義・方法を理解する 4. 感染防止の意義・対策を理解し、基本的な防止のための技術を習得する 5. 看護における学習支援の概要を理解する 6. 看護におけるコミュニケーションの基本を理解する				
教科書：系統看護学講座 専門分野I 基礎看護技術I 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野I 基礎看護技術II 基礎看護学③ 医学書院 フレレンス・ナイティンガール 看護覚え書き 日本看護協会出版社 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版社				
参考文献：新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術II メディカルフレンド社				
評価方法：筆記試験 100% (黒田 20%、藤原 80%)				
評価認定：優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方：1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業は事前課題→講義→学内実習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます 3. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります 4. コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、グループワークを取り入れていきます。積極的に参加しましょう 5. 学内実習は実際の場面を想定して行い、看護を目指すものとしての自覚と責任を持ち、技術の向上を目指して主体的に臨みましょう				
単元：感染防止	担当講師： 黒田いく子			
単元：技術の概念・安全確保他	担当講師： 藤原未央			

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	技術の概念	看護における技術の意義・特徴を理解する 看護技術の原理原則に基づき、根拠を持って実施する重要性を理解する	2	1. 技術とは 2. 看護における技術 3. 看護技術の特徴 4. 看護技術を適切に実践するための要素 1) 看護技術の目的 2) 原理・原則 3) 安全・安楽 4) 実施	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		適切な看護技術の習得に必要な要素を理解する		5) リフレクション 5. これから学んでいく看護技術 1) 科学的根拠に基づく看護 (EBN)	
2	安全確保	安全の意義と確保するための方法を理解する	2	1. 安全確保の基礎知識 2. 主な医療事故と予防策	講義
3	観察・記録	看護における観察の目的・意義・方法を理解する 看護記録の目的・意義・方法を理解する	2	1. 看護における観察 1) 観察の目的と意義 2) 観察の方法と内容 (1) 主観的情報と客観的情報 (2) フィジカルアセスメント (3) ヘルスアセスメント 2. 看護における記録 1) 看護記録の目的と意義 1) 看護記録の法的規定 3. 記載・管理における留意点 4. 看護記録の構成 1) 基礎情報 2) 看護計画 3) 経過記録 4) 看護サマリー	講義
4	コミュニケーション技術	患者一看護師及び医療チームメンバー間の関係構築・促進のためのコミュニケーションのあり方を理解する	2	1. 医療におけるコミュニケーションの意義・目的・特徴 2. 患者一看護師関係の構築の基本と効果的なコミュニケーション技術 1) 傾聴・受容・共感 2) アサーティブ 3) コーチング 4) 治療的コミュニケーション 3. 看護専門職としてコミュニケーション能力を高めるために 1) ジョハリの窓 2) プロセスレコード	講義
5	学習支援技術	看護における学習支援の目的・意義を理解する 様々な場・健康状態・対象における学習支援の概要・	2	1. 看護における学習支援とは 1) 看護の中にある学習支援 2) 教育・指導から学習支援へ 3) ヘルスプロモーション 4) 学習支援の対象と場面 2. 学習支援に活用する理論	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		特徴を理解する		1) セルフケア理論 2) アンドラゴジー 3) 変化のステージモデル 4) 自己効力感 5) エンパワメント	
6	感染防止	感染と感染予防策の概要を理解する 感染防止における看護師の責務と役割を理解する 医療器材の管理・無菌操作の重要性を理解する 感染性廃棄物の処理方法を理解する 医療現場における組織的な予防対策を理解する	3	1. 感染防止の基礎知識 1) 感染成立の条件 2) 院内感染の防止 2. 標準予防策（スタンダードプリコーション） 1) 標準予防策の基礎知識 2) 対策の実際 3. 感染経路別予防策 1) 接触予防策 2) 飛沫予防策 3) 空気予防策 4. 洗浄・消毒・滅菌 5. 無菌操作 1) 保管方法 2) 減菌物の取り扱い（DVD） 6. 感染性廃棄物の取り扱い 7. 感染対策の基礎知識と実際 1) カテーテル関連血流感染 2) 針刺し事故	
7		スタンダードプリコーションに基づいた感染防止対策技術を習得する	2	1. 学内実習 1) 項目 衛生学的手洗い・滅菌手袋の装着・ガウンテクニック 2) 方法 (1)事前課題 援助計画書の熟読・DVD 視聴 (2)学内実習の進め方 ①デモンストレーション ②援助計画書に沿った技術練習・評価 ③リフレクションシートの記載	講義 DVD
8					DVD 学内実習 デモンストレーション

<事前課題>

単元	課題内容
感染防止	「微生物学」で学習した以下の内容を復習する 1)感染成立のしくみ 2)標準予防策の目的と方法 3)感染経路別予防策の目的と内容
コミュニケーション技術	レポート課題 (A4用紙1枚: 講義の前日までに提出) ヘンダーソンの「10. 意思の伝達・欲求・気持ちの表現」を読み、「①コミュニケーションの欲求が充足するとはどういうことか、②コミュニケーションの欲求を充足させるために、看護師はどうあるべきである」と述べているか、理解した内容を整理する
学習支援技術	レポート課題 (A4用紙1枚: 講義の前日までに提出) ヘンダーソンの「14. 患者が学習するのを助ける」を読み、ヘンダーソンが「①学習支援の目的、②学習支援の在り方、③看護師の役割・責任についてどのように述べているのか内容を整理する

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
生活援助技術 I	1	30	1年前期	櫻井美奈子 齊藤まどか
科目目的：人間にとっての食事・栄養、排泄の意義を理解し、看護技術に必要な知識・技術・態度を身につける				
目標：1. 食事・栄養、排泄の意義と基礎的な知識・技術・態度について理解する 2. 対象の栄養状態、排泄状態のアセスメントの方法を理解する 3. 食事・栄養、排泄に関する援助方法を習得する 4. 対象を尊重した態度で援助技術が実践できる				
教科書：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ 医学書院 フロレンス・ナイティンゲール 看護覚え書き 日本看護協会出版会 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン著 日本看護協会出版会				
参考文献：演習・実習に役立つ基礎看護技術 HIROKAWA ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 MC メディカ				
評価方法：筆記試験 100% (櫻井 50% 齊藤 50%)				
評価認定：優(80点以上)、良(70~79点以上)、可(60~69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 1. 各教科書、学内実習要項、事前に配布された資料は忘れずに毎回準備してください 2. 事前課題で取り組んだ内容をもとに、グループワーク、アセスメントへとつなげていく学習になります。個人で事前課題に取り組み、グループワークでは個々人の相違を見つけるためにも積極的に意見交換をしましょう 3. 食事・栄養、排泄に関する基礎知識が学べたら、次は実際に食事介助・口腔ケア、排泄援助の実習を行います 4. 学内実習後は援助者として、援助された者として感じたことを十分に振り返って、食事援助技術・排泄援助技術として大切にしたいことのまとめ学習をします				
単元：食事援助技術		担当講師：櫻井美奈子		
単元：排泄援助技術		担当講師：齊藤まどか		

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	食事援助の基礎知識	人間にとって食事・栄養とは何かを理解する	4	1.食事・栄養の意義 1)生理的な意味 2)心理的な意味 3)社会的な意味 2.食欲に影響を及ぼす要因 3.事前課題を持ち寄りグループワーク 基本的欲求が充足した状態「楽しく食べられる満足感の条件」食事の学習内容	講義
2					グループワーク 発表

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				意義について、生理的、心理的、社会的側面から考えてみます	
3 4	食事援助の基礎知識	栄養・食事に関するアセスメントの方法を理解する 経口的に栄養摂取が行いにくい場合の基礎知識を理解する	4	1.栄養状態および食欲・摂取能力のアセスメント (基本的欲求の未充足状態：食事を阻害する要因) 1)栄養状態 2)水分電解質バランス 3)食欲 4)摂取能力 5)食生活変更の必要性・患者の認識、行動 2.医療施設で提供される食事 3.摂食・嚥下訓練援助の基礎知識 1)摂食・嚥下のメカニズム 2)実施前の評価	講義
5	食事援助の実際	安全で快適な食行動が取れるよう、食事援助の基礎知識を理解する	2	1.援助の基礎知識 1)食欲不振の対象の援助 2)視覚障害のある対象の援助 3)体位・体動制限のある対象の援助	講義 D V D 視聴 「食事介助」 デモンストレーション
6 7		食事介助・口腔ケアの基本的援助方法を習得する 対象を尊重した食事援助技術の実際を理解する	4	2.援助の実際：患者の状態に応じた食事介助と口腔ケアの基本技術を実施する 1)座位とフアーラ位での食事介助・フアーラ位で口腔ケア(歯磨き・含嗽)を根拠に基づいた方法・手順で学習する 2)他者に食べさせてもらう体験を通して、援助を受ける対象を身体的・心理的側面から考える * 看護師役・患者役の双方をそれぞれ体験する 3.学内実習後のリフレクション (グループワークと発表) 1)援助者・患者役からの学びを話し合う ・自立している時ではイメージしにくい他者に食べさせてもらう体験から、感じとったことを出し合い、看護者として大切にしていきたいことをまとめて発表する 2)実習後の課題 (1)模擬患者役としての評価を記載 (2)リフレクションシートを記載	学内実習 グループワーク 発表 課題提示

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
8	非経口的栄養摂取の援助	非経口栄養摂取の概略について理解する	2	1.経管栄養 1)援助の基礎知識(種類と留意点) 2.中心静脈栄養 2)合併症の予防・発見	講義 DVD 視聴 「経管栄養」

事前課題と内容の視点

1. フロレンス・ナイティンゲール 看護覚え書き VI 食事、VII どんな食べ物を？ を読み、看護の対象である病人の何を注意深く観察するのか、食べられるよう看護師はどのようになことに創意工夫を努めなければいけないか記載されていればよい。
2. ヴァージニア・ヘンダーソン 看護の基本となるもの「2.患者の飲食を助ける」を読み、「食べさせてもらうこと」「食べさせること」の中にどのような心理的要因があるのか記載されていればよい。
3. 身体的・心理的・社会的な面から見た食事の意義・必要性が記載されていればよい。

講義開始 3 日前に 1~3 内容の学習ノートを提出

- 事後課題 1. 学内実習後、患者役として看護師役から援助を受けた感想と振り返りを記載する（模擬患者としての評価）。
2. 学内実習後のリフレクションから、対象への配慮・尊重がどのような行動になるとよいかを考え
今後の自己の課題を行動目標で明記しているか確認します（リフレクションシート）。

実習終了 2 日後に提出

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
9	自然排尿および自然排便の基礎知識	排泄の意義を理解する 排泄のメカニズムが理解する	2	1.自然排尿および自然排便の基礎知識 1)排泄の意義 (生理的・心理・社会的な意味) 2.排泄に影響を及ぼす要因 3.事前課題を持ち寄りグループワーク 基本的欲求が充足した状態 「排泄行動を実行できる能力とはどのような条件が必要か」自分自身の排泄行動から考えてみます 4. 排泄器官の機能と排泄メカニズム 1)排尿 2)排便	講義 グループワーク 発表 講義
10		状態に応じた援助を決定するためのアセスメントの方法を理解する	2	5.観察とアセスメント(基本的欲求の未充足状態 正常な排泄を阻害する要因) 1)排尿のアセスメント 2)排便のアセスメント 3)移動動作のアセスメント 4)心理・社会的状態のアセスメント	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
11	排泄援助の実際	自然排尿・排便援助の基礎的知識を理解する	2	1.自然排尿および自然排便援助の基礎知識 1)ポータブルトイレ・トイレでの排泄援助 2)床上排泄援助 3)おむつを用いた排泄援助	DVD 視聴 「排尿・排便の援助」 デモンストレーション
12	排泄介助の基本的援助方法を習得する 対象の尊厳を保った援助技術の実際を理解する		4	2.援助の実際：臥床中の対象への尿・便器用いた床上排泄技術を実施する 1)床上での排尿・排泄援助を根拠に基づいた方法・手順で学習する 2)床上排泄の模擬体験を通して、援助を受ける対象を身体的・心理的側面から考える * 看護師役・患者役の双方をそれぞれ体験する	学内実習
13				3.学内実習後のリフレクション (グループワークと発表) 1)援助者・患者役からの学びを話し合う ・排泄行為を他者に委ねた模擬体験から感じとれたことを出し合い、看護者として大切にしていきたいことをまとめ発表する 2)実習後の課題 ・模擬患者役としての評価を記載 ・リフレクションシートを記載	グループワーク 発表 課題提示
14	排泄を促す援助	排便を促す援助の基礎知識を理解する	2	1. 排便を促す援助の基礎知識 1)便秘のアセスメントと看護ケア 2)浣腸の適応・留意点 3)摘便の適応・留意点	講義 DVD視聴 「浣腸・摘便」
15		導尿についての概要を理解する ストーマケアについての概要を理解する	2	1.導尿 1)一時的導尿の適応・留意点 2)持続的導尿の適応・留意点 2.ストーマケア 1)援助の基礎知識 2)援助の実際	講義 DVD視聴 「導尿・膀胱留置カテーテル」
	単位修得認定試験		1	筆記試験	

- 事前課題 1. フロレンス・ナイティンゲール 看護覚え書き I 換気と加湿 p 25～28、VIII ベッドと寝具 p 102、XI 身体の清潔 p 119 を読み、排泄物を取り扱う時の注意、看護師としてやらなければいけないことが記載されていればよい。
2. ヴァージニア・ヘンダーソン 「3. 患者の排泄を助ける」を読み、正常な排泄ができる要因は何かが記載されていればよい。
3. ベッドに寝ていて、便意を感じトイレまで行き、排泄を済ませ再びベッドに戻るまでの経過を、できるだけ詳細に抽出してくる。行動レベルで、何をどのようにしていったのか、ひとつとも行動がもれないよう順序だてて記載する。(排泄行動が自立で行われるためには、排泄に必要な動作を不足なく書き出してくる) 排泄行動を実行できる能力を自分自身の排泄行動から確認してみます。

講義開始 3 日前に 1～3 内容の学習ノート提出

- 事後課題 1. 学内実習後、患者役として看護師役から援助を受けた感想と振り返りを記載する(模擬患者としての評価)。
2. 学内実習後のリフレクションから、対象への配慮や尊厳を保つための援助方法がどのような行動になるとよいかを考え、今後の自己の課題を行動目標で明記しているか確認します(リフレクションシート)。

実習終了 2 日後に提出

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
生活援助技術II	1	30	1年 前期	藤原未央 三上麻美
科目目的	：人間にとての環境・活動・休息・睡眠の意義を理解し、対象が健康生活を送るために必要な知識・技術・態度を身につける			
科目目標	： 1. 環境・活動・休息・睡眠の意義を理解する 2. 環境・活動・休息・睡眠のニーズのアセスメント方法を理解する 3. 環境・活動・休息・睡眠に対する援助技術を習得する			
教科書	：系統看護学講座 専門分野I 基礎看護技術I 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野I 基礎看護技術II 基礎看護学③ 医学書院 フロレンス・ナイティンガール 看護覚え書き 日本看護協会出版社 看護の基本となるもの V.ヘンダーソン 日本看護協会出版社			
参考文献	：ナーシング・グラフィカ 基礎看護学技術 基礎看護学③ メディカ出版 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術II メヂカルフレンド社			
評価方法	： 筆記試験 100% (藤原 50%、三上 50%)			
評価認定	： 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする			
授業の進め方	： 1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います 2. 授業は事前課題→講義→学内実習→実習の振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます 3. 授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります 4. コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、グループワークを取り入れていきます。積極的に参加しましょう 5. 学内実習は実際の場面を想定して行い、看護を目指すものとしての自覚と責任を持ち、技術の向上を目指して主体的に臨みましょう 6. レポートの内容については、授業で各自の意見を求めながら進めます			
単元： 環境	担当講師： 藤原未央			
単元： 活動・休息・睡眠	担当講師： 三上麻美			

授業進度と内容（環境）

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	環境調整	療養生活環境を整える意義を理解する 病室の環境のアセスメントと調整について理解する	2	1. 療養生活の環境 1) 人と環境 2) 療養生活と環境 3) 生活環境の調整 2. 病室の環境のアセスメント 1) 病室・病床の選択 2) 温度・湿度 3) 光・音 4) 色彩	講義

単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
			5) 空気の清浄性と臭い 6) 人的環境 (事前課題) 文献学習後、ワークシート記載 (体験学習の内容) 1. 推測値・基準値・測定値 (照度・自分の足音・人の話し声) 2. 高・低ベッド、ストッパーなしのベッドからの乗り降り 3. しわのある・ないベッドの寝心地の違い (事後課題) 体験学習内容をワークシートに記載	講義 体験学習
2		2	(グループワーク課題) 事前課題及び体験学習をもとに、「快適な環境整備」について意見交換を行う 1. 事前・体験学習を通してそれぞれが感じたことを発表し合う 2. 快適な環境を整える必要性とその方法について意見交換する (事後課題) レポート作成	グループ ワーク 参加型
3 4 5 6 7 8	療養環境を整えるための援助技術を習得する	12	1. 学内実習 1)項目：ベッドメーキング・環境整備 2)方法 (1)事前課題 ①リネンのたたみ方の練習 ②援助計画書の熟読・DVD 視聴 (2)学内実習の進め方 ①デモンストレーション ②1 グループ 4名で1ベッド使用し、リネンのたたみ方・おき方・広げ方を練習 ③ジグソー学習 a. 敷きシーツ（三角）・掛けシーツ（四角）のチーム練習 b. 敷きシーツ（三角）・掛けシーツ（四角）のグループ練習 ④技術評価 ⑤グループワーク（学内実習の学びの発表） ⑥リフレクションシートの記載	DVD 学内実習 デモンストレーション ジグソー 学習 グループ ワーク

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
9	活動	活動の意義について理解する 活動の基礎知識を理解する	2	1. 基本的活動・運動の意義とメカニズム 1) 人間と活動・運動 2) よい姿勢、日常生活動作 3) ボディメカニクス 2. 体位の種類と身体への影響 3. 同一体位の有害性	講義 グループワーク
10		活動をアセスメントし適切な援助方法を理解する	2	4. 活動のアセスメント 1) 運動のアセスメント (1) 体位・動作の観察 (2) 関節可動域の評価 (3) ADL の評価 2) 廃用症候群 5. 体位変換・体位保持・移動・移乗・移送の援助の基礎知識	参加型 DVD
11		活動の援助技術を習得する	4	6. 学内実習 1) 実施項目 体位変換①仰臥位→水平移動→側臥位 ②仰臥位→端座位 移乗・移送 ①車椅子②ストレッチャー 2) 実習方法 (1) デモンストレーション (2) 援助計画書に沿って実施 (3) 終了後チェックリスト、リフレクションシート、患者体験レポートの記載	学内実習 デモンストレーション 体験学習
12					
13	休息・睡眠・安楽	休息の意義について理解する 休息・睡眠の基礎知識を理解する 休息・睡眠のアセスメントし適切な援助方法を理解する	2	1. 休息の意義と睡眠の意義とメカニズム 2. 休息・睡眠のアセスメント 1) 活動内容と量・休息のとり方 2) 睡眠パターン 3) 睡眠障害 3. 休息・睡眠の援助 1) リラクセーション	講義
14		安楽を促進する 看護技術を習得する	4	4. 学内実習 1) 実施項目: 冷罨法・温罨法 2) 実施方法 (1) デモンストレーション (2) 援助計画書に沿って実施 (3) 終了後チェックリスト、リフレクションシートの記載	学内実習 デモンストレーション 体験学習
15					
単位修得認定試験			1	筆記試験	

事前・事後課題（環境）

単元	事前	事後	課題内容	特記事項
環境整備	○		1. ナイティンガールが述べている「環境」に関する各項目（I・II・IV・V・VIII・IX・X）を読み、それぞれの望ましい環境のあり方について理解した内容をワークシートに整理する 2. 教科書 P10～15 一般的な環境基準について調べる	講義開始 2日前に提出
		○	ワークシートに体験学習から学んだこと・感じたことの内容を整理する	当日記載しグループワーク参加時に持参
	○		レポート課題（A4用紙：1枚） 文献学習・体験学習・グループワークを通して「療養環境を整える必要性」について自己の考えを整理する	グループワーク終了2日後に提出

（環境ワークシート）

生活援助技術II（環境） ワークシート

＜ナイチンガールの環境＞

換気と加温	住居の健康	物音	変化	ベッドと寝具	陽光	部屋と壁の清潔
望ましい環境のあり方						

＜室内環境＞

	基準値	測定値
温度		
湿度		
騒音		
照度		

＜体験記録＞

ベッドからの乗り降り		ベッドの寝心地
高いベッド		しわのあるベッド
低いベッド		しわのないベッド
ストッパーなし		

ベッドの大きさ	
カーテンに囲まれた空間の大きさ	

事前課題（活動・休息）

ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の中の「歩行時および、臥位に際して患者が望ましい姿勢を保持するよう助ける。また患者がひとつの体位からほかの体位へと身体を動かすのを助ける」「患者の休息と睡眠を助ける」の部分を読んで看護師は何をみて、どんな援助していくべきか述べているのか熟読し、学習ノートに整理する。